

平成30年4月吉日 発行
発行者 公益財団法人青樹会
編集者 公益財団法人青樹会
広報委員会
連絡先 医療社会事業課
代表番号 0748-33-7101

青葉の風

第38号

平成30年度が始まりました！春の訪れとともに、滋賀八幡病院にも多くの新入社員が就職し、希望が感じられる季節となりました。春風と一緒に、新しい出会いがみなさんの生活にも希望を運んでくれるといいですね♪。

滋賀八幡病院の季刊広報誌「青葉の風」第38号をお届けいたします。

➤ 「一億総活躍社会」ではなくて

「一億総活躍社会」とても耳に心地よいポジティブな言葉ですが、危なくないですか？

働きたくても働けない、活躍したくても活躍できない障害者等の弱い立場の人にとっては「働かざるもの食うべからず」といった考えと結びついたり「自己責任」論にも繋がって、とても生きにくい社会を生み出しそうです。相模原市の知的者福祉施設殺傷事件後、同施設に子供を通わせておられた母親が「役に立てなくて悪い？」とつぶやいておられた事を思い出します。



医師 山本 大輔

「誰かの役に立っていないと悪い」と思い込まされている社会はとてもつらい社会です。働いている人にとっても「自分は有用な存在だ」と証明し続ける事を求められるのは精神衛生上とても有害で過労死や自殺にもつながります。空疎で中身の無いスローガンに感化されるのは危険なことです。

臨床現場での話。統合失調症の患者さんたちの多くが「健康な人」とは働く喜び、生きがいを感じており、どんな人とも良い関係を結び、話題にも常に困らない人であると思ひ、自分にはとても無理だと絶望しているとおっしゃいます。でも実際には、健康な人であるとはこんなおとぎ話様な物ではなく、もっと見栄えのしないものです。

こうであればいいのに、あああるべきだったとか思いつつ、こう振る舞ってしまう、ああは振る舞えないと自分に舌打ちしたり、自己嫌悪したり、あきらめたりしながら、まあ何とか生きているものだと思います。

「健康な人」だってこんなものだと患者さんたちが、納得し実感させられた時、彼らの心にちょっと「ゆとり」が生まれるのを感じます。



外来診療予定表



	月	火	水	木	金	土
1 診	由利	山 柁	石 倉	由利	山 柁	石 倉
2 診	濱 名	山 本	齋 藤	山 本	濱 名	—
3 診	山 路	青 木 崇	山 路	青 木 崇	佐 藤	—
4 診	佐 藤	青 木 宣	—	岡 島	—	—
内 科	—	—	水 野	—	—	—
循環器	—	—	—	—	—	蘆 原

外来診療は完全予約制です。事前にお電話でご確認ください。

- ・診 療 時 間 : 午前9時 ~ 午後5時
- ・診 療 日 : 月曜日~土曜日 土曜日は平常どおり診療しております。
- ・休 診 : 日曜 祝祭日 年末年始 (12/29~1/3)

~~ 受診の際は健康保険証をお忘れなく ~~



私たちは、地域住民の心と身体の健康をささえる病院として、
全ての人に等しく医療を提供し、公衆衛生の向上ならびに社会福祉の増進に貢献します。



認知症疾患医療センターおうみのご紹介。



認知症疾患医療センター おうみは、認知症の早期発見、早期治療を目指し、認知症に関する専門医療相談や認知症の鑑別診断を行っています。認知症かな?と思ったらまずはご相談ください。

当院は認知症の診断だけでなく、認知症状が進行してご自宅での介護が困難になった方の入院治療も行っています。お薬と環境の調整を行い、落ち着かれたらご自宅や施設などに退院してお近くの通いなれた診療所や病院に通院していただくことも可能です。ご本人、ご家族が地域で安心して生活できるようにお手伝いいたします。



- ➡ 相 談 日 月~金曜日
(土日・祭日・年末年始除く)
- ➡ 相 談 時 間 9:00~16:00
- ➡ 相 談 方 法 来院・面談・電話相談
- ➡ 相 談 料 金 無料
- ➡ 直 通 番 号 0748-33-7106

認知症のリハビリテーション について



作業療法士 中岡 圭

現在、日本国内にいる認知症の患者数は約460万人、正常な老化と認知症の間の状態と言われる軽度認知障害の方が約400万人とされています。双方を合わせると、高齢者の約4人に1人が何らかの認知症対策が必要だという計算になります。政府も認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)を展開しており、認知症の方が住み慣れた地域の良い環境で、自分らしく暮らし続けるための政策を進めています。また、各ご家庭や地域の方においては認知症の方への対応や関わり方などにも苦慮されているのではないかと思います。このような情勢の中、リハビリテーション(以下リハビリ)の専門職の一つである作業療法士の視点から認知症の方へどのようなリハビリを行うのかお話ししたいと思います。

みなさんはリハビリというとどのようなことを思い浮かべますか？多くの方は、病気やケガをする前のように生活を送ることができるように訓練することとお考えになると思います。正解です。しかし、認知症など徐々に進行していく病気の場合、以前と同じような生活を送ることは少しずつ難しくなっていきます。そこで、**リハビリでは障害を持つ方が持てる力を最大限活用し、自立のための能力を高め、その人らしく生きる権利を回復すること**を目指します。

その中で作業療法士は、身体や心の機能だけでなく「生活」にも注目し、当事者の方が自分らしく、満足のいく生活を送ることができるように関わっています。認知症になってから日課や習慣にしていたことが出来なくなったり、生きがいにしていた仕事が出来なくなったり、趣味を楽しむことが少なくなったというケースも多くあります。このような状態では、その方にとって満足のいく生活とは言えません。以前と同じような方法で行うことが出来ないかもしれませんが、**作業工程を変えたり、道具を変えたり、介助の方法や量を変えてみたりすることで、その方の大事にしている作業を取り戻したり、認知症が進行しても続けていくことが出来る可能性があります。**そしてそれは、ご本人のやる気や生活のハリ、心のゆとりに繋がっていくかもしれません。

また、認知症の方の生活を支えるうえで、ご家族や介助者の方の力が不可欠になります。ご家族や介助者の方の声にも耳を傾けながら、関わり方や介助方法等を提案させていただき、お互いに納得のいく生活を送ることができるように支援をしていきます。

最後に、作業療法士は病院や介護老人保健施設、通所リハ、訪問リハなど様々な場所にいます。作業療法についてもう少し詳しく聞きたいという方は、かかりつけの医師やケアマネージャー、各施設の相談員などに一度ご相談いただき、ご連絡いただければと思います。気になる方は、ぜひ一度、主治医までご相談頂ければと思います。





地域と医療をつなぐ ～精神科デイケア～



皆さんは「デイケア」という名前はお聞きになったことはありませんでしょうか。デイケアは、福祉・医療関係施設が提供するサービスの一種で、「通所リハビリテーション」すなわち、病気等で日々の生活に不安やしづらさを感じている方々が、地域で生活を営みながら利用できる機関です。

当院では、「デイケア歩° 歩°」として、日々活動しています。

心の病気になってしまった方は、意欲や達成感がわきにくくなる事が多く、引きこもってしまい、対人関係にも障害を起こしてしまいます。デイケアでは、活動を通じて人と接することによって社会復帰や入院予防を目標としています。デイケアの主な目的をまとめますと次の通りになります。



✦ 目的 その1

決まったリズムのある生活を営むことで、生活時間の管理能力を持たせること。昼間に活動して、夜に快眠するというリズムを安定させることによって、心のバランスを整えます。

✦ 目的 その2

仲間と一緒に何かをすることで、自主性と協調性を培うこと。特に、人付き合いを苦手としている方は、大小さまざまな集団活動を通じて、自分と人の違いに気づき、適応していく訓練となります。デイケアでは、利用者が主人公です。利用される方が「どのような目標を持っているか」を聞き取り、サポートしていきます。

✦ 目的 その3

ゲームなどのレクリエーションや、セミナーなど共に学ぶ機会を通じて、社会復帰に必要な体力と作業能力を維持、向上していきます。

✦ 目的 その4

復職や就職活動に必要な技能を身につけられるよう援助していきます。必要に応じて、支援センターや作業所などとも相談や連絡をとっています。



デイケアのプログラムは、参加されている利用者と共に作成しています。内容としては、調理実習・心理教育・音楽療法・カラオケ・スポーツ・創作活動・書道などがあります。また、バス旅行やバーベキューなど季節に応じたレクリエーション活動も行っています。利用者から「こんなことをしたい!」という要望があれば、話し合って追加されることもあります。どのようなことをしているのか気になるという方は、是非、一度見学にいらしてください。